

全国初 なぜ学校現場に作業療法？

飛騨市学校作業療法室

専門家が学校で子どもたちの“できるようになりたい”に寄り添う！

学校作業療法室は、生活全般に関する支援を行う作業療法士が、月2回、各校を訪問するものです。専用の部屋で日中滞在し、子どもが目標を設定し、解決策を発見し行動できるスキルを習得し、子どもたちの「できるようになった！」を増やすためにサポートをしています。このサポートは全児童・生徒、教員、保護者を対象に行われています。

学校生活でよくあるお悩みをサポート

- (例) ・友達と喧嘩した
- ・学校に行きたがらない
- ・宿題をやりたがらない

さらに学校作業療法を充実させるために

学校現場で活動する作業療法士はまだまだ少なく、作業療法士の育成・確保に課題があります。今年度4月から地域おこし協力隊の制度を活用して学校作業療法士の育成を行っています。

全児童を対象にした授業



心を落ち着かせるための瞑想の時間

それぞれの子どもの個性に寄り添ってサポート



昇降口には子どもから作業療法士への質問箱・通称「さくせんポスト」を設置



地域おこし協力隊

みやけ さき
三宅沙希 さん



出身地 委嘱日
大阪府堺市 令和7年4月1日

着任から3カ月経ちましたが飛騨での暮らしはいかがですか？

困っていたら優しく声をかけてくれるいい人ばかりで、魚や野菜も美味しいですし、気候も涼しくて、飛騨市が大好きになりました。

着任してから感じたことは？

飛騨市の学校作業療法の取り組みを知り、関心を持ち、地域おこし協力隊に応募しました。学校作業療法は福祉と教育と行政の連携が必要不可欠ということ。そして、学校現場に作業療法が馴染んでいることを実感しています。

現在取り組んでいることを教えてください
学校作業療法の人材育成のマニュアルやツールを作成

困りごとのある子どもや保護者の役に立ちたい！

学習や生活での困りごとやつまづきを解決するために、子どもたちに寄り添いながら、一人ひとりの個性を可視化し、対応事例を集約しています。これにより、これから学校現場で作業療法を行う方が、スムーズに子どもたちをサポートできるようなツールの作成に取り組んでいます。

もっと詳しく知りたい方は動画をぜひご覧ください。▶

皆さんへのメッセージ

地域おこし協力隊の活動を通して学校作業療法をもっと充実させることで、困っている子どもや保護者、先生の役に立っていきたいです。お気軽にご相談ください。

